

## 平成 25 年度京都府立大学一般選抜入学試験における出題ミスと追加合格について

平成 25 年 8 月 28 日

京 都 府 立 大 学

平成 25 年 2 月 25 日に実施いたしました平成 25 年度一般選抜試験前期日程において、国語の問題に出題ミスがありました。これにより再度採点及び合否判定を行った結果、4 名を追加合格と致しました。

受験者、ご家族及び関係者の皆さまに対し、心よりお詫び申し上げますと共に、再発防止の更なる強化に努めてまいります所存です。

事実概要および対応については下記の通りです。

### 記

#### 1. 試験名称

平成 25 年度一般選抜試験前期日程

#### 2. 試験日

平成 25 年 2 月 25 日（月）

#### 3. 出題ミスの箇所

国語大問Ⅱ「古文」問題冊子 6 頁問題文 4 行目、問一

#### 4. 出題ミスの内容

出典文献の「かかるほどのことは、いらへぬも便なしなどあれば」とあるのを、「かかるほどのことは、いらへも便なしなどあれば」と「ぬ」一字を脱字しました。

その結果、問一で「傍線部 a・b の語の本文中での意味を記せ」と質問しており、傍線部 a の「便なし」について、複数の解答が可能になりました。問一の a 「便なし」の意味を質問した箇所につきましては、受験者全員の解答を正解としました。

#### 5. 出題ミス発見の経緯

今年 7 月中旬に出版社からの問合せがあり発見されました。

#### 6. 対応措置

当該設問について受験者全員を正解扱いとした上で採点を再度行い、改めて合否判定をしたところ、新たに 4 名が合格となりました。

当該の合格者に連絡をとり、謝罪し合格証を渡し出題ミスの説明を行いました。現在、誠意をもって対応を進めています。

二 次の文章は『更級日記』の一節である。この前月、作者の父は常陸介に任じられ、はるかな東国へ赴任していった。よく読んで後の問いに答えよ。(30点)

八月ばかりに太秦うづまさにこもるに、一条より詣づる道に、男車、二つばかり引き立てて、物へ行くにもろともに来べき人待つなるべし。過ぎて行くに、隨身みづらひだつ者をおこせて、

花見に行くあと君を見るかな

と言はせたれば、かかるほどのことは、いらへも便aなしなどあれば、

千ぐさなる心ならひに秋の野の

とばかり言はせていき過ぎぬ。

七日さぶらふほども、ただあづま路のみ思ひやられて、よしなし事からうじてはなれて、「平らかにあひ見せたまへ」と申すは、X。

仏もあはれと

冬になりて日ぐらし雨降りくらしたる夜、雲かへる風はけしうち吹きて、空晴れて月いみじう明うなりて、軒き近ぢきぢ荻あしのいみじ

く風に吹かれて砕けまどふがいとあはれにて、

秋をいかに思ひいづらむ冬深み風にまどふ荻の枯葉は

あづまより人來たり。「神しん拜はいといふわざして国のうちありきしに、水をかしく流れたる野の、はるばるとあるに、木むらのあるをかしき所かな、見せどとまづ思ひ出でて、「こはいづことかいふ」と問へば、「子しのびの森となむ申す」と答へたりしが、身c

よそへられていみじく悲しかりしかば、馬よりおりて、そこに二時なむながめられし。

とどめおきてわがごと物や思ひけむ見るにかなしき子しのびの森

となむおほえし」とあるを見るこち、いへばさらなり。かへりことに、

子しのびを聞くにつけてもとどめおきし秩父ちちぶの山のつらきあづま路

(注) ○太秦……京都市右京区にある広隆寺。 ○一条……平安京の最北を東西に通ずる大路。 ○七日さぶらふ……七日間お籠もりする。 ○神拜……新任の国司が領内の神社を巡拝すること。 ○秩父の山……現在の埼玉県秩父郡の山。

問一 傍線部 a・b の語の本文中での意味を記せ。

出典(小学館 日本古典文学全集『更級日記』)と異なる引用箇所について

1. 出題ミス箇所。出典では「いらへぬも便なしなどあれば」の「ぬ」を誤って抜かした。
2. 出典では「雨降りくらしたる」とイ音便形になっているが、問題文の意味を明確にし、受験生に理解しやすくするための改変をした。
3. 出典では「ここはいづことかいふ」と記されており、「こ」一字を誤って抜かした。「こ」と「ここ」とは実質的に意味は変わらず、問題文前後の文脈に変化を生じさせることはなく、解答に影響はない。

参考

『旺文社 全訳古語辞典』  
こ【此・是】近称の指示代名詞。自分に近い事物や場所を指す。これ。ここ。  
『岩波古語辞典』  
こ【此】(代)空間的・時間的・心理的に話し手に近いものを指す。これ。ここ。